

令和 7年 3月28日

関係者各位

世田谷区立京西小学校  
校長 大島 出

## 昨年度の取組とその結果について

### 1) 非認知能力の育成

○教師や友達からの価値付けの日常化と人のために役に立つ喜びが感じられる教育の機会の設定を行った。特に、初の取組となった全校遠足とそれに関わる縦割り班活動では、それぞれの学年が自分の役割を考え、人と関わりながら参加する姿が見られた。

→人のために役に立つ行動の価値を感じている児童が多い。その中で協働性や他者信頼を高めるとともに、自己有用感が高まるよい循環ができた。それを認め、価値付けることで更に高めていけるようにする。

○キャリアパスポートを活用して、夢や希望の育みと自己実現を図るとともに、教員や保護者からの励ましの言葉を加えることで、それをしっかりと価値付けることができた。

→目標・実践・振り返りをきちんと書くことができるようになった。自分で課題解決について考え、自己実現ができるようになってきていることを認めることで、さらに強化していく。

○地域の方や保護者をゲストティーチャーとして招聘したり、海外の学校とのオンラインの交流を意図的に行った。

→他者理解が深まってきており、多様性についても意識も高まった。

○学級ごと、週ごとに行う「あいさつし隊」の活動を、年間を通して行った。また、学び舎合同で行う「おはようコミュニケーションデー」を学期ごとに2～3日設定し挨拶励行の機会を設けた。

→各学級の工夫した取組が行われ、その後の個々の挨拶にも良いが見られた。また中学生が小学校に来て挨拶する機会が復活し、双方に良い影響が見られた。

○授業における言葉遣いを正すとともに、よい姿については適宜価値付けを行うことで、児童の正しい言葉遣いを促していった。

→正しい言葉を意識して使うようになってきている。日常の関わりの中では崩れることがあるので、引き続き正しい言葉遣いの重要性について伝え、意識して使っていけるように働きかけていく。

○ふれあい月間の児童アンケートやWEBQUの実施と分析、活用により、いじめの未然防止・早期発見・早期解決を図った。

→いじめ発生の未然防止、早期発見解決に役立った。更に児童の様子を日頃からよく観察することに加え、S Cとの連携を充実させていくことで未然防止に努めていく。

## 2) 基礎学力の育成と探究的に学ぶ授業の充実

- 漢字・計算など基礎学力の定着について、指導方法の工夫を共有し、
  - まだ学年によってばらつきがあるため、計画的に定着しているか定期的に見取り、スパイラルで指導していくとともに、タブレット端末を活用した指導で効率化を目指す必要がある。
- 各学年、一定の読書時間、読書量、学習での本の活用の内容の豊富さを確保できている。
  - 家庭での協力へのはたらきかけをさらに行っていく。読書月間だけでなく、年間を通して、読書や学習での本の活用を行い、本が当たり前にある環境を充実させていく。
- 校内研究による国語科における「探究的な学び」また、タブレットの活用による「個別最適な学び」が定着してきた。課題発見、自己の課題解決、協働的な学び、振り返りを繰り返し、探究的な学びを身に付けるような授業改善が進んでいる。
  - 「探究的な学び」については、他教科への活用も含めて更に取り組んでいく。自分たちで学習課題や解決方法を考える探究的な学びが確実に身に付きつつある。引き続き、タブレットの活用を進めていく。

## 3) 健康教育の充実と体力向上

- 体育の授業では、運動量を十分に確保するとともに、めあてをもって運動に取り組み振り返りを行った。
  - 体力向上への意識をもつことができた。
- 体力テストの結果を授業改善につなげた。
  - 各種目におけるコロナ禍以降低下していた体力の数値は改善の傾向にある。外遊びの励行をし、日常的な運動の機会を確保することで、さらに体力の向上を図っていく。
- ゲストティーチャーの授業で、アスリートによる指導を行い、技能の向上を図った。
  - 方法を知り、自分の運動に取り入れようとする姿勢が見られた。体育の授業でもその成果を生かそうとする姿が見られたので継続して取り組んでいく。
- 早寝早起き、朝ご飯を推奨し、生活リズムを確立させる取組を実施した。
  - お弁当の日の設定と給食指導での食育の充実により、食に関する意識は高めることができたが、高学年での睡眠時間の確保が課題である。家庭との連携により、今後の改善を図る。

## 4) 家庭・地域との連携・協働

- 学校運営委員会と連携したプロジェクトを充実させることができた。
  - 京西アカデミー・京西文庫（読み聞かせ）・第二校庭の芝生養生の活動により、子どもたちの体験活動が充実し、心の育成につながった。
- 地域・家庭の人材活用とキャリア教育の推進をし、各学年の教育活動に取り入れることができた。6年に向けたキャリア講話では、保護者の協力の下、生き方についてレクチャーを受けた。

→子どもたちにとって貴重な話となり、自分の将来を考えるきっかけづくりになっている。保護者からゲストティーチャーを募り、キャリア教育に直結するものになった。

○4年生の総合的な学習の時間の活動では、地域（商店街振興組合、用賀まちづくりセンター）との連携によるイベントを行った。

→地域への関心が高まり、貢献の意識をもつようになってきた。

○地域との連携で防災に関する授業に取り組んだ。

→児童の防災意識を高めることにつながった。避難訓練など、その他の防災に関する活動とも連携させ、さらに意識を高められるようにしていく。

○教育相談の充実を図るため、SCや関係機関との連携を密に行うことができた。

→校内委員会の充実を図り、さらに効果的な活用を目指していく。

○学校ホームページを活用して、積極的に学校からの情報発信を行った。日常の学校や児童の様子を毎日の学校日記でお伝えし、年間26万件のアクセス数を達成した。

→行事などの機会を利用して周知を図り、さらに多くの人に見てもらえるようにするとともに、その中で、学校経営方針や学校の考えについても積極的に伝えていく。

## 5) 学び舎を起点とした連携活動の推進

○3校での授業研究や6年生の中学校訪問などの交流を行った。

→コロナ禍明けで実際に来校しての参観や見学をすることができた。今後、内容を精選しながら効果的な活動について充実させていく。

○「ようがの学び舎」の教員相互の連携・指導力の向上を目指し、校内研究の相互参加を行った。

→年度当初に日程を周知できるようにすることで、参加できる機会を増やしていく。また、その他の活動を含め、学校だよりや学校ホームページでの保護者地域への周知を図ったが、認知度が低い。更に情報を充実させるとともに、継続して行っていくことで認知度の上昇を目指す。